

清らかな源流の里 県南農林だより

第10号



農林業関係の動き

■医福食農連携セミナーを開催



参加者からの質問を受ける錫谷教授

1月14日(木)、県南地方における農業、食品加工、医療、福祉、それぞれの現場の情報交換と連携強化を目的に、白河市立図書館において「医福食農連携セミナー」を開催しました。

県南地方の新生運動構成員、医療・福祉関係者、食品加工関係者等50名が参加しました。

セミナーは、^{すすたに}錫谷達夫教授(県立医科大学微生物学講座)による「健康増進と農業・食品産業の振興」についての基調講演の後、管理栄養士の藤田真由美氏(白河病院)、熊田芳江氏(社会福祉法人こころん)、横森和志氏(株式会社しらかわ五葉倶楽部)からそれぞれの立場での医福食農連携事例を報告していただきました。

参加者からは、腸内環境を整える食品やナツハゼの機能性等について質問があり、医福食農連携への関心の高さが感じられました。

今後も、異業種連携による農林水産物の新たな活用を図ってまいります。(企画部)

目次

農林業関係の動き

- ◇ 医福食農連携セミナー
- ◇ 第2回ヤングファーマー経営力ステップアップセミナー
- ◇ しらかわ地方集落営農推進セミナー
- ◇ 県南地方グリーン・ツーリズム実践セミナー
- ◇ 林業機械整備技術研修会
- ◇ 県南地方山火事連絡協議会

コラム

- ◇ 県南地方の農業施設の紹介
- ◇ 地産地消の取組について

お知らせ

- ◇ 県南農林事務所における平成28年度主要事業について

■第2回ヤングファーマー経営力ステップアップセミナーin県南を開催



講演を熱心に聞き入るヤングファーマー

1月21日(木)、白河市表郷で、若い農業者を対象とした第2回経営力ステップアップセミナーを開催し、10名が参加しました。

セミナーでは、福島県普及指導協力委員である、有限会社マネジメントコア代表取締役小針俊郎氏から「経営発展に必要な雇用と労務管理」と題してご講演をいただきました。

参加者からは、今回のセミナーを機に本格的に雇用してみようという声が聞かれたり、個別相談で積極的に質問する姿がみられるなど、有意義なセミナーとなりました。

また、ヤングファーマー間での交流が図られ、今後は相互協力、経営の規模拡大を通じて、地域の農業が活性化されることが期待されます。(農業振興普及部)

■平成27年度しらかわ地方集落営農推進セミナーを開催



パネルディスカッションの様子

2月10日(水)、JAしらかわ(現JA夢みなみ)セシモニープラザにおいて、県南農林事務所と白河市主催による集落営農推進セミナーを開催しました。

下郷町芦ノ原地域における2階建て組織による集落営農の実践事例や白河市入方地区における多様な水田農業に挑む集落営農法人の取組み事例、さらには栃木県鹿沼市における飼料用米の取組事例について報告があり、100名を超える農業者等の出席者が、先進事例に熱心に耳を傾けました。

また、パネルディスカッションでは活発な討論が行われ、出席者の多くが集落営農に向けた気運を高めるとともに、今後の取り組みについて決意を新たにしました。(農業振興普及部)

■平成27年度県南地方グリーン・ツーリズム(GT)実践セミナーを開催



意見交換会の様子

2月22日(月)、23日(火)、しらかわ広域連携GT推進協議会の主催により、GT先進地の喜多方市において、実践セミナーを開催し、県内外から47名が参加しました。

セミナーでは、伊藤幸太郎氏(喜多方市GTサポートセンター理事長)より喜多方市での事例について講演をいただいた後、しおやGT推進協議会(栃木県塩谷町)、ゆうきの里とうわふるさとづくり協議会(二本松市)などの参加者により、GTの組織体制づくり、取組や受入れ方法などについて意見交換を行いました。

参加者からは、GTに携わる方々の高齢化、人材(人財)の育成・確保、組織を運営する上での資金面の課題、効果的なPR手法などの課題やアイデアが出されました。

その後、喜多方市内の農家民宿に分宿し「おもてなし」について学び、翌日は農業体験の実践方法について学びました。今回の実践セミナーでは、他協議会との広域的な繋がりが実現し、それぞれが抱える様々な課題や解決のヒント等を共有できたセミナーとなりました。

今回学んだことを活かして、より多くの実績を積んでいただきたいと思います。(企画部)

■チェーンソー・刈払い機整備技術研修会を開催



チェーンソーのメンテナンスについて熱心に聞き入る受講者

2月23日(火)、奥久慈流域林業活性化センターの主催によるチェーンソー・刈払い機整備技術研修会が棚倉合同庁舎で開催され、県南地方の林業就業者等が17名参加しました。

この研修会は、林業就業者等に最新の林業技術を学んでもらうための研修会(全4回)の一環として行われたもので、緑川正明氏(有限会社緑川林業機材代表取締役)、古賀隆生氏(ハスクバーナ・ゼノア株式会社東北支店)を講師に、機械の構造やトラブルを防ぐメンテナンス方法などを実際の機械を使って学びました。

参加者からは、「細かい構造や仕組みを知ることができた。」「メンテナンスの詳しい方法が分かった。また実施してほしい。」などの意見が寄せられました。

県では、今後も林業就業者等の技術向上や定着の促進に向けて、奥久慈流域林業活性化センターと連携して研修会を継続していく予定です。(森林林業部)

■県南地方山火事連絡協議会を開催



協議会の様子

3月1日(火)、棚倉合同庁舎第1会議室において山火事連絡協議会を開催しました。

この協議会は、県と関係機関が連携して山火事予防を推進するため、毎年この時期に開催しています。

会議では、平成27年林野火災発生状況についての報告のほか、林野火災の通報体制の確認、広報誌等を活用した山火事予防の周知徹底など、平成28年山火事予防運動の実施計画について協議しました。

平成28年は、「誓います 森の安全 火の始末」を全国統一標語とし、県南地方における山火事防止強化月間を3月20日から4月20日(春期)と11月15日から12月15日(秋期)とし、林野火災予防運動を展開してまいりますので、皆様の御協力をお願いします。(森林林業部)

コラム

■県南地方の農業施設の紹介【第6回】ため池「南湖」



【南湖公園】 国の史跡・名勝、農林水産省ため池百選、南湖県立自然公園などに指定されている

白河市を代表する風光明媚な観光名所「南湖」は、12代白河藩主の松平定信が、藩主とともに土農工商の四民が楽しむことができる「共楽の園地」を目指して、1801年に築造したのですが、当初より農地を潤す「ため池」としての機能も合わせ持ち、現在は農林水産省「ため池百選」にも選ばれています。

総貯水量は約181千 m^3 を誇り、受益面積約104haの農業用水として、西・南・東側の農地の貴重な水源となっています。

名前の由来は、唐の李白が洞庭湖に遊んだ折に詠んだ詩「南湖秋水夜無煙」を引用したとの説や、定信の居城である小峰城の南方にあることから名付けられたとの説があるようです。

遠くは西方的那須山、近くは東南方の関山を借景とし、鏡の山・月待山・小鹿山の丘陵に囲まれ、周辺には堀や柵を設けず、定信自ら庭園内に関の湖・鏡の山・共楽亭などの17景16勝を選定し、そこに歌碑も造りました。

このように、「南湖」は庶民が憩い集う開かれた園地機能、農業用水として田を潤すため池機能、さらには水害等に備える調整池機能など、複合的な機能を兼ね備えた優れた名所と言えます。(農村整備部)



南湖の堤体

■地産地消の取組について

県では、小中学校において県産食材利用を支援する事業の実施や直売所での県産農林水産物のPRなど、地産地消の推進や県産農林水産物の風評払拭に取り組んでいますので、平成27年度の事例を紹介します。

【学校給食おいしい県産農林水産物活用事業】

○取組校数:小学校11校、中学校3校、給食センター等(小学校27校、中学校14校)

取組割合は、小学校は43校中38校(88%)、中学校は18校中7校(94%)でした。

○主な県産食材:果物(ブルーベリー、ブドウ、ナシ、リンゴ)、野菜(イチゴ、シュンギク、ネギ)、肉魚介類(牛肉、豚肉、鶏肉、ニジマス)、加工品(鶏つくね、川俣シャモメンチカツ、コンニャク、ユズシャーベット)

【「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーン】

○り菜あん(5月)、みりょく満点物語(8月)、東ふれあいの里直売所(8月)、道の駅はなわ(11月)で実施。約1,600人のお客様に県産産物のブロッコリー、牛乳、6次化商品、しいたけ、天のつぶ等のPRを行いました。

直売所等を訪れるお客様の多くは、県産農林水産物の安全性を理解されており、試食した食材を買い求められたり、調理方法を尋ねられたりと、県産農林水産物に対するマイナスイメージを持っている方は少なくなっており、県外からのお客様からは、多くの応援の声をいただきました。

平成28年度も引き続き学校給食への補助事業やキャンペーン等を実施しますので、詳細については県南農林だよりやホームページ等でお知らせいたします。(企画部)



地産地消の給食メニュー

- ・豚肉の香味焼き
- ・冬野菜のピリ辛炒め
- ・かき玉汁

お知らせ

■県南農林事務所における平成28年度主要事業について

平成28年度県予算総額は1兆8,819億円、うち農林水産関係の予算は1,218億円となっており、ここではその一部の施策を紹介します。

○チャレンジふくしま 水田フル活用緊急対策事業

稲作農家の所得の確保を図るため、飼料用米や園芸作物の導入を誘導します。

○第三者認証GAP導入支援(東京オリンピック・パラリンピック農産物供給体制緊急支援事業)

第三者認証GAP等を導入して、2020年東京オリンピック・パラリンピックへの食材供給を通じた情報発信をすることで、他産地に負けない魅力の発信と消費者の信頼回復を図ります。

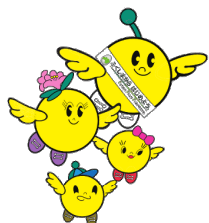
○青年就農給付金事業

就農前(2年以内)の研修期間及び就農直後(5年以内)に給付金を交付し、青年の就農意欲の喚起と就農後の定着を支援します。

○ふくしま森林再生事業

原発事故による放射性物質の影響から森林整備が停滞し荒廃が懸念されるため、公的主体による森林整備と放射性物質対策を一体的に推進し、多面的機能を維持しながら森林の再生を図ります。

(企画部)



農林業に関する相談などお気軽に御連絡ください!

福島県県南農林事務所 企画部

〒 :961-0971

住所:福島県白河市昭和町269[白河合同庁舎]

電話:0248-23-1577

平成28年3月18日発行

